

## 平成19年度 女性のチャレンジ賞表彰受賞者

受賞者名	所属	都道府県	活動内容
うえだ きせこ 植田 貴世子	株式会社クラッシー代表取締役	徳島県	<p>1997年に生活総合支援企業「クラッシー」を設立した。(2005年に株式会社へ組織変更)</p> <p>クラッシーは家事代行、託児、幼児教育、介護等、生活に関するあらゆる事柄を細分化した上で、総合的に組み合わせることが可能なアラカルト型サービスを提供している。女性が培ってきた知識や経験を最大限に生かせる職場として、徳島の女性の社会参画や再チャレンジの場としても大きな位置を占めている。</p> <p>起業家としての実績とは別に、1995年に行政とタイアップして立ち上げた「AWAおんなあきんど塾」の初代塾長を務め、起業前後の女性経営者の様々な相談を受けている。</p> <p>その他、2003年にはNPO法人「ヒューマン・オン・ザ・ムーブ」を設立し、英語教育を取り入れた学童保育や女子学生・再就職希望者のためのキャリアアップ講座、知的障害を持つ子どもや親のためのフリースクール運営などを行い、女性が安心して社会経済活動に従事するとともに、子どもが健全に発育する教育・保育環境の整ったまちづくりを目的として活動している。</p> <p>株式会社クラッシーもNPO法人「ヒューマン・オン・ザ・ムーブ」も徳島県内のみならず、関西圏や関東圏で広く事業展開している。</p>
うんの ふみこ 海野 フミ子	JA静岡市理事 アグリロード美和代表	静岡県	<p>JA女性部支部長として女性部活動の核作りに取り組み、農産物直売所・加工施設「アグリロード美和」を開設したほか、地産地消の波に乗って地元産の作物を活かした加工品や「生消菜言弁当」を発案し、ヒットさせた。「生消菜言弁当」は、牛乳パックを利用した容器の活用など、食の安全だけでなく環境にも配慮している。今まで換金できないでいた農産物を経済に結びつけたことで、生産活動が活発化し、さらに雇用が創出され、地域振興にも大きく貢献した。</p> <p>農協組織においても、JA静岡市初の女性理事に選任され、女性の経営・方針決定過程への参画拡大の原動力となった。</p>

## 平成19年度 女性のチャレンジ賞表彰受賞者

受賞者名	所属	都道府県	活動内容
かまの 鎌野 実知子 なかはし 中橋 恵美子	全国子育てタクシー協会 ((有)花園タクシー取締役 特定非営利活動法人わははネット理事長)	香川県	鎌野氏は、中橋氏が設立に尽力したNPO法人「わははネット」から子育てタクシーの企画提案を受け、子育てタクシーを運行している。香川県の子育て講座や保育所での保育実習を受け、修了したドライバーには「認定証」を渡すなど、「子育てタクシー」となるための研修プログラム体制を整えた。また、「全国子育てタクシー協会」を設立し、自ら会長として全国各地で取組をアピールしている。 中橋氏は、NPO法人「わははネット」を立ち上げ、育児情報誌の出版や携帯電話を活用した子育て情報配信サービス「わははメール」事業等情報発信を行っている。「子育てタクシー」の企画以外にも、1階の共用スペースにスタッフを配置したキッズルームを設置するなど、子育て世代に配慮した「子育てマンション」の企画など、子育て当事者の目線で新しい企画を地元企業とも連携して発案、実施している。
みやざき 宮崎 弘美	株式会社かむるみプランニング 代表取締役	福島県	出産後、通常の社会生活を送ることも困難な重度の産後うつを患ったが、webデザイナーとして復帰後、株式会社かむるみプランニングを設立し、代表取締役を務めている。同社では、主にホームページのリニューアルや企画・運営・制作を行う業務を行っているが、特に心のケアや母親のケアに携わる方や福島県関連の企業・ネットショップに携わる方の支援を積極的に行っている。 宮崎氏自身は、産後うつ病の経験から、同じ病に苦しむ母親を支援したいと考え、「産後うつ」についての自助グループ的なサイト「ママブルー」を運営し、産後うつの回復のサポートを行っている。また、起業やうつからの回復、母親支援についての講演を多数行い、幅広く活躍している。福島市ふくしま協働のまちづくり実行委員会電子会議室担当委員や福島県女性経営者プラザ理事も務め、行政機関と連携した活動も行っている。

## 平成19年度 女性のチャレンジ支援賞表彰受賞者

受賞団体名	代表者氏名	都道府県	活動内容
株式会社マザーネット	うえだ りえこ 上田 理恵子	大阪府	<p>ワーキングマザーが仕事と家事・子育ての両立をしていくうえでの問題点を解決し、「仕事を続けてよかった」と実感できる社会を創造することを会社の理念とし、ワーキングマザー自らの体験をもとに、家事や育児の細かいニーズに応えるサービスや出張・残業時のスタッフ派遣業務、子どもの病気に対応する派遣型病児保育を実施している。</p> <p>また、他社他業種で働くワーキングマザーの出会いの場を提供する講演や交流会、「育児休暇復帰準備セミナー」の開催や「両立のノウハウをまとめた月刊情報誌」の発行など、ワーキングマザーの支援を総合的に行い、企業における女性の活躍推進にも取り組んでいる。</p> <p>現在では、大阪に本社を置き、東京・長野・福岡に支社をおいて展開するとともに、各支社においてもセミナーやシンポジウムを開催している。</p>

# 平成19年度 女性のチャレンジ賞特別部門賞(地域の魅力の発信)表彰受賞者

受賞者名	所属	都道府県	活動内容
さいとう ちづ 齋藤 千鶴 (さいとう ちづ)	特定非営利活動法人コンカリーニョ理事長	北海道	<p>大学の演劇研究会で演劇に魅せられ、役者として劇団設立に関わり、劇団解散後は演出家、プロデューサーとして活躍している。</p> <p>1995年からは、昭和初期建造の石造倉庫を改装した劇場「コンカリーニョ」を、演劇や音楽、ダンスなど、多彩な演目で運営していた。地域資源を再活用した劇場は、道内外の多くの表現者が集う場所となった。</p> <p>2002年に都市再開発計画により劇場閉鎖後には、再建に向けた委員会の代表として、精力的に建設資金集めに駆け回り、2006年に、「地域とひととアートを結ぶ」生活支援型文化施設として劇場を再建した。地域の人々を役者に、地域の歴史を元にした創作劇など、地域の文化拠点として様々な事業を企画するとともに、劇場の外でも地域コミュニティに寄与する活動を行っている。</p> <p>劇場「コンカリーニョ」は「まちの劇場」として親しまれ、地域の魅力を地域住民が再認識する契機となるとともに、道内外にも広く発信している。</p>
まるやま ゆか 丸山 結香	有限会社やまこし道楽村代表取締役	新潟県	<p>新潟県中越大震災の翌年に、自ら起業したコンサルタント会社の他に、被災地山古志で生業を失った人達の暮らしの再生を支援する「有限会社やまこし道楽村」を設立した。復興は女性が主役と位置づけ、コンサルタントのノウハウを活かして、彼女たちがビジネスとして活動できるように「食べてゆける仕組みづくり」を進める。具体的には、山古志の中高年女性達が田舎料理でもてなす「あねさの会」や震災語り部、防災ガイドの育成、防災視察ツアーなどを企画・成功させたほか、スローフードをコンセプトとした「DOURAKU神楽」のプロデュースや完全予約制のカフェの運営などを地域住民と協働して行っている。また、震災2周年に「あのとき、これから」をテーマにしたイベントを開催するなど、全国に山古志を発信している。</p> <p>地域の人たちの新たなビジネスへの挑戦を支援し、首都圏に顧客を確保するなど、地域の魅力の新たな発信に貢献している。</p>
やつくら ともこ 谷津倉 智子	Funnybee株式会社代表取締役	神奈川県	<p>学生時代にボランティア活動で日雇い労働者や生活保護受給者が暮らす横浜市中区寿町を訪れたことを契機に、寿地区の街と人のこころの再生活動を始める。</p> <p>2001年ホームレスを支援するNPO法人「さなぎ達」の立ち上げに参加し、2年後に理事に就任した。</p> <p>NPO活動を経済的に支援できるビジネスへ展開させるために、2004年、株式会社「Funnybee」を設立し、寿地区に密集する簡易宿泊所をリフォームし、空き部屋を外国人旅行者などにあっせんする「横浜ホステルビレッジ」事業を始めた。外国人や日本の若者など外部からの人の出入りや環境整備の契機をつくり、「どや街」を「やど街」に再生する取組に従事している。</p> <p>路上生活者の自立支援から街づくりまで、「衣・医・食・職・住」の各分野における活動を行い、地域の再生に市民と協働して取り組んでいる。</p>